

令和4年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

大学改革の動向と今後の教員養成

「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書」が締結されたのは、平成14年のことです。依頼、21年にわたり活発な連携協力を進めてきています。その間、大学は法人化による中期目標・中期計画、大学改革加速期間、ミッションの再定義、2040に向けた高等教育のグランドデザイン、といった流れの中で、教員養成の一本化（人間発達環境課程の廃止、教育学研究科の教職大学院化など）を推進してきました。さらに平成28年の「国立教員養成系大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受けて、教員養成の内部改革と教員研修機能の強化、附属学校園改革を迫られてきました。また令和2年度あたりから「令和の日本型学校教育」というビジョンが示され、それを担う教師の在り方特別部会が組織され、教員研修や教職大学院のあり方が議論されてきました。こうした一連の改革は地元の教育委員会との連携なしには推進できるものではありません。今後も一層の連携強化が求められているところです。

令和4年12月に出された「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」（答申）は、養成、免許の授与、採用、研修という多方面に渡る改革を求めてきています。それに合わせて、香川県の教員育成方針（育成指標）を本学と香川県教育委員会との間で共同策定し、その内容を教員養成カリキュラムに反映させる努力を積み重ねています。教育学部の入試改革では、令和5年に実施される令和6年度推薦入試から、地域枠（香川県で教員になりたい！）の仕組みを導入しました。同時に、令和5年に実施される教員採用試験から、大学推薦枠が導入されることとなり、香川県の教員になろうとする本学の学生に、特別枠を設けてもらう予定です。また教員研修に関わっては、本学の教職大学院と香川県教育センターとで連携協定を結び、教員研修への貢献に一層力を入れることとしています。また各教員は学校長との対話の中で研修計画を策定するという新しい制度への対応に関しても、連携協力する予定です。

教員定数が埋まらない、教職を目指す学生が激減するなどの一大事と、さらに少子化、18歳人口の激減、教職員の定年延長などの課題とが、ますます交錯しながら、混迷の数年が続くと想定されます。そうした中、何よりも地元香川県の教育界に貢献できる教育学部、必要とされる教育学部を目指していきたいと思えます。

令和5年3月

香川大学教育学部長
野崎 武司

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本教育委員会では、令和3年10月に第4期「香川県教育基本計画」を策定し、「郷土を愛し 夢と志を持って 自ら学び 歩み続ける人づくり」の基本理念のもと、学校をはじめ家庭や地域と連携・協力しながら、香川で育ったことを人生のゆるぎない礎として、自分の良さや可能性を見出し、夢と志を持って、生涯にわたって学び続けることができるよう、様々な教育施策を積極的に展開しているところです。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組は21年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題に対応するため、多方面で連携・協力を進めているところです。

令和4年度の事業を振り返りますと、香川大学の先生方には、県教育委員会各課主催の現職教員研修や各種事業等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただいたり、学力向上モデル校事業や道德教育地域支援委託事業において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。

さらに、連携事業である、公立学校での教育実習や、公立学校インターンシップの実施を通して、未来の教員の育成を図るとともに、教職大学院連携研修講座を実施し、現役の教員の資質・能力の向上にも寄与していただきました。また、公立学校等の教育活動支援や、香川県学力等調査結果の分析においても、連携をお願いし、専門的な立場から貴重なご指導・ご助言をいただきました。

坂出高校「教育創造コース」においては、無事4期生を送り出すことができました。新型コロナウイルス感染症対策のため制約が多々あったにも関わらず、教育学部の教授等による出前講座やグループ研究活動の指導をはじめ、附属坂出小・中学校、幼稚園、特別支援学校における実習の受け入れなど、坂出高校教育創造コースの教育にご理解をいただき、多大なるご支援を賜りました。本コースで学んだ生徒たちが、教職への夢を一層膨らませ、理想の教師像を形づくり、未来の香川の教育を担う人材へと育っていくことを期待しているところです。

香川県教育委員会では、平成30年度に「香川県教員等人材育成方針」を策定し、目指すべき香川の教員像として「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」を挙げています。今後とも、教員等が教職経験に応じた知識・技能を習得し、実践的指導力を高められるよう、香川大学教育学部との連携協力を一層密にしながら、学び続ける教員の育成に向けて努力を重ねてまいりたいと考えております。

令和5年3月

香川県教育委員会教育長

工 代 祐 司

目 次

はじめに

大学改革の動向と今後の教員養成

香川大学教育学部長 野 崎 武 司

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 工 代 祐 司

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

【概要編】

令和 4 年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力

に関する取り組み一覧 …………… 1

【資料編】

- [資料 1] 令和 4 年度公立学校インターンシップ実施要領…………… 9
- [資料 2] 公立学校教員等の活用…………… 11
- [資料 3] 香川大学教育学部の専任教員として…………… 14
- [資料 4] 令和 4 年度香川県教育委員会免許法認定講習…………… 18
(特別支援学校教諭)
- [資料 5-1] 令和 4 年度管理職候補者研修会…………… 19
- [資料 5-2] 教員研修連携プログラム…………… 20
- [資料 6-1] 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業…………… 23
- [資料 6-2] 教育の情報化推進モデル事業…………… 25
- [資料 6-3] 幼児教育支援員派遣事業…………… 26
- [資料 7] 香川県学力等調査結果分析検討会議…………… 28

| | | |
|---------|-------------------------------|----|
| [資料 8] | 第 22 回未来からの留学生について…………… | 29 |
| [資料 9] | 令和 4 年度特別支援教育コーディネーター協議会…………… | 30 |
| [資料 10] | 坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業…………… | 31 |
| [資料 11] | 香川大学教職リカレント教育プログラム…………… | 39 |

【覚書・要項】

| | |
|------------------------------------|----|
| 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書…………… | 40 |
| 香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項…………… | 41 |

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み

概 要 編

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

| 項 目 | 令和4年度実績 | 令和5年度計画等 | 資 料 |
|-------------------------|--|---|-----|
| ①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 連携協議会 (R5.2.9) ○ 幹事会 開催なし ○ 専門委員会 開催なし | 連携協議会開催 (R6.2 予定) ・ 幹事会 (1 回程度) | |
| ②報告書の作成 〔担当：教育学部〕 | ○ 令和3年度実績報告書作成 | ・令和4年度実績報告書作成 | |

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

| 項 目 | 令和 4 年度実績 | 令和 5 年度計画等 | 資 料 |
|---|--|--|------|
| ①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕 | <p>正規</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附特支 公立 1 校（参観）6 月（1 日間）（中止） <p>特別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附高小 公立小 0 校（実習） ・附坂小 公立小 0 校（実習） ・附高中 公立中 1 校（実習）5 月（5 日間） ・附坂中 公立中 1 校（実習）5 月（5 日間） <p>※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 | |
| ②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員採用内定者が公立学校で研修 ・ 対象者：40 名（学部 40 名、院 0 名） ・ 実施期間 令和 5 年 1 月～3 月（5 日程度） | <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 | 資料 1 |
| ③教職大学院における公立学校等での実習 〔担当：教育学部〕 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 高度教職実践専攻における実習連携協力校 9 校の連携協力校（県立特別支援学校 1 校、高等学校 3 校、中学校 3 校、小学校 2 校） | <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 <p>39 校園の連携協力校（県立特別支援学校 2 校、高等学校 3 校、中学校 12 校、小学校 20 校、幼稚園 2 園） ※新たに 2 校（小学校 1 校、中学校 1 校）追加予定。</p> | |
| ④公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） （高校教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育実践集中講座の実施 ※ 教育関係職員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・ 退職校長（日下哲也） 主任指導主事（藤崎裕子、尼子智悠） ・ 年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 | 資料 2 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 豊島 修、谷口弓恵、倉野晴代 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 | 資料 3 |
| ⑤大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学教員が公立学校現場で研修 ※ R 4 年度も新型コロナウイルスの影響により「中止」。 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 | |

2 教員研修に関するもの

| 項 目 | 令和4年度実績 | 令和5年度計画等 | 資 料 |
|--|---|--|-----|
| ①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委] | ○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名、H22.7名、H23.6名、 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、 H28.11名、H29.10名、H30.10名、R1.10名、R2.6名、 R3.4名、R4.8名) ・教職大学院学校力開発コース 4名 ・教職大学院授業力開発コース 2名 ・教職大学院特別支援開発コース 2名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの | ・継続実施 (令和5年度は10名の予定) ※10名の内訳(義務教育課9名、県立(特支)1名) | |
| ②教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委] | ○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月～9月)への大学教員の派遣等 | ・継続実施 | 資料4 |
| (免許法認定公開講座) [担当：教育学部] | ○小学校の現職教員が中学校教諭免許状(英語を取得するための免許法認定講習を実施(8講座、8単位) | ・継続申請中 | |
| ③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委] | ○対象受講者がなかったため、未実施。 | ・未定 | |
| ④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委] | ○ 初任者研修・職務研修の講師・助言者として大学教員を派遣 ○令和4年度「小中教育指導研修会」の研修企画の指導・助言 ○教職大学院連携研修講座として6講座を実施。 ・資質・能力を育む教科の授業づくり 56名 ・道徳科の授業づくり 33名 ・授業支援システムを活用した学習活動の創造 中止(5名申込) ・授業における特別支援教育 27名 ・学校の危機管理研究I-① 1名 ・学校の危機管理研究I-② 0名 | ・継続実施 ・研修講師を派遣 ・継続実施 | |

| | | | |
|---|---|---|-------------|
| <p>⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]</p> | <p>○内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名、H30 2名、 R1 2名、R2 1名、R3 1名、R4 1名)</p> | <p>・継続実施</p> | |
| <p>⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]</p> | <p>○教員免許状更新講習として必修講習 1、選択必修講習 2、選択講習 6 の計 9 講座を開設</p> | <p>・法改正により廃止</p> | |
| <p>⑦教員研修連携科目の実施 (管理職候補者研修会) (義務教育課) [担当：県教委] [担当：教育学部]</p> | <p>○管理職候補者研修会年 10 回のうちの 2 回を香川大学教職大学院開講の「学校の危機管理研究 I」として実施 (大学教員が担当)</p> <p>○学校の危機管理研究 I (集中・1 単位) 8 月 2 日 106 名 (うち院生 8 名) 8 月 3 日 108 名 (うち院生 8 名)</p> <p>○学校の危機管理研究 II (集中・1 単位) 9 月 10 日 36 名 (うち院生 7 名) 9 月 17 日 35 名 (うち院生 7 名)</p> | <p>・継続実施</p> | <p>資料 5</p> |
| <p>⑧教職大学院科目等履修制度の創設 (義務教育課) [担当：教育学部]</p> | <p>○教員研修連携科目を履修する場合、事前に「教職大学院科目等履修生」として申請・登録して履修することにより、「教職大学院科目等履修単位」として認定する。</p> <p>※上記⑦の受講者のうち、科目等履修生として受講した者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の危機管理研究 I (集中・1 単位) 8 月 2 日、3 日とも 32 名 ・学校の危機管理研究 II (集中・1 単位) 9 月 10 日 27 名 9 月 17 日 26 名 <p>○「教職大学院科目等履修単位」を取得した者が教職大学院へ入学した場合は、当該科目を取得済として認定する。</p> | <p>・継続実施</p> <p>※引き続き、管理職候補者及び「小中教育指導研修」受講者へ積極的に働きかける</p> | |

3 調査・研究に関するもの

| 項 目 | 令和4年度実績 | 令和5年度計画等 | 資 料 |
|---|--|----------|-----|
| ①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) [担当：県教委] | ○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業 ・ 教育の情報化推進モデル校事業 ・ 小学校外国語教育推進モデル校事業 ・ キャリア教育モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進 | ・ 継続実施 | 資料6 |
| ②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) [担当：県教委] | ○ 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習 状況調査」の結果分析に対する指導助言 | ・ 継続実施 | 資料7 |

4 事業に関するもの

| 項 目 | 令和4年度実績 | 令和5年度計画等 | 資 料 |
|---|--|----------|------|
| ①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) [担当: 県教委] | ○ 大学教員を講師として派遣 ・ 高松桜井高 ・ 高松西高 | ・ 継続実施 | |
| ②高大連携 (高校教育課) [担当: 県教委] | ○ 高校生が香川大学の公開授業や体験授業に参加 公開授業: 1学期 16名、2学期 13名 体験授業(夏休み): 130名 | ・ 継続実施 | |
| ③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) [担当: 県教委] | ○ 学生ボランティア派遣事業(登録者 72名) ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター(適応指導教室)に 68名を派遣(R4.12.1現在) | ・ 継続実施 | |
| | ○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集 | ・ 継続実施 | |
| ⑤未来からの留学生 [担当: 教育学部] | ○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催 (県教育委員会後援) ※3年ぶりに対面開催。約 800名が参加 | ・ 継続実施 | 資料 8 |
| ⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) [担当: 県教委] | ○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力 | ・ 継続実施 | |
| ⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) [担当: 県教委] | ○ 各種事業委員会の委員等として相互協力 | ・ 継続実施 | |
| ⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) [担当: 県教委] | ○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開した。 | ・ 継続実施 | |

| | | | |
|--|--|---|--------------|
| <p>⑨特別支援教育総合推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家チーム ・ 巡回相談 ・ 特別支援教育コーディネーター協議会 ・ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 <p>(特別支援教育課) [担当：県教委]</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 体制整備の推進に関する指導・助言 ○ 学校（園）を訪問し、発達障害を含む障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校（園）の支援体制について指導助言 ○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義 ○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続実施 | <p>資料 9</p> |
| <p>⑩香川 CST 事業</p> <p>[担当：教育学部]</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実績なし | <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃止 | |
| <p>⑪令和 4 年度 独)教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター開発支援事業</p> <p>[担当：教育学部]</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の本事業を本学教職大学院との共催において実施。令和 4 年度は 5 つのラボ研修会を通じて、主に四国内の教育関係者を対象に各教員の資質・能力向上につなげる内容を教育関係機関や多くの先生方との連携・協働で提供してきた。道徳 (3 回) 保健室 (2 回) 英語 (1 回) 授業づくり&ICT (2 回) 個別最適な学び (1 回) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も多様な形で継続実施を検討。 | |
| <p>⑫坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業</p> <p>(高校教育課) [担当：県教委]</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学教員による指導等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座の実施 (9 回) ・ グループ研究指導 (3 回) 及び研究室訪問受け入れ ・ 大学訪問の受け入れ (1 回) ○ 附属学校における活動 (計 11 回) <ul style="list-style-type: none"> ・ 附属坂出小学校 (6 回) ・ 附属坂出中学校 (4 回) ・ 附属坂出幼稚園 (3 回) ・ 附属特別支援学校 (1 回) ○ 教育創造コースの教育内容に関する検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続実施 | <p>資料 10</p> |
| <p>⑬ICT を利用した障害理解、遠隔授業指導、遠隔教育相談</p> <p>[担当：教育学部]</p> | <p>コロナ禍のため実績なし</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続実施 | |

5 その他

| 項 目 | 令和4年度実績 | 令和5年度計画等 | 資 料 |
|------------------------------------|---|----------|-------|
| ①附属学校への教員派遣 (義務教育課) [担当：県教委] | ○ 令和4年度新規派遣 ※ () は合計数 ・ 附属高松小 4 (25) ・ 附属高松中 3 (19) ・ 附属坂出小 3 (18) ・ 附属坂出中 3 (19) ・ 附属特別支援学校 2 (13) ・ 附属幼稚園 2 (5) 計 17 名 (101 名) | ・ 継続実施 | |
| ②教職リカレント教育プログラム [担当：教育学部] | 文部科学省からの委託事業「学校教育における外部人材活用事業」として オンライン講習 (全9講座) を開設 | ・ 未定 | 資料 11 |

資 料 編

令和4年度 公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

1. 目的

令和5年3月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

2. 対象者

令和5年3月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（ただし教職大学院生及び講師経験のある院生は対象外にすることができる。）

3. 参加人数

| | | | |
|--------|-----|----------|-----|
| 公立小学校 | 25名 | 公立中学校 | 15名 |
| 公立高等学校 | 0名 | 公立特別支援学校 | 0名 |

4. 実施時期・期間

令和5年1月下旬～令和5年3月初旬の間で1週間（5日程度）

5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

| 研修学生 | 研修校 | 研修予定期間 | 備考 |
|--------|-------------|------------------------|----------|
| 教育学部4年 | 高松市立亀阜小学校 | 2/6-2/10 | 2名 |
| 教育学部4年 | 高松市立新番丁小学校 | 2/20-2/27 | 2名 |
| 教育学部4年 | 多度津町立豊原小学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立弦打小学校 | 2/27-3/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 丸亀市立城坤小学校 | 2/20-2/27 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立屋島西小学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 丸亀市立城南小学校 | 2/13-2/17 2/20-2/27 | 1名 1名 |
| 教育学部4年 | 琴平町立榎井小学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立木太中学校 | 2/6-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立三溪小学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 三木町立氷上小学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立高松第一小学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立高松第一中学校 | 2/6-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 善通寺市立東部小学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立栗林小学校 | 2/21-2/28 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立太田小学校 | 2/6-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立木太小学校 | 2/20-2/27 | 1名 |
| 教育学部4年 | 丸亀市立垂水小学校 | 2/6-2/10 | 1名 |

| 研修学生 | 研修校 | 研修予定期間 | 備考 |
|--------|--------------|-----------|----|
| 教育学部4年 | 高松市立国分寺南部小学校 | 2/6-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立大野小学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立太田南小学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立林小学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立国分寺北部小学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立協和中学校 | 1/30-2/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立紫雲中学校 | 2/20-2/27 | 3名 |
| 教育学部4年 | 高松市立桜町中学校 | 1/30-2/3 | 2名 |
| 教育学部4年 | 高松市立一宮中学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立玉藻中学校 | 2/6-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立太田中学校 | 2/7-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 宇多津町立宇多津中学校 | 2/27-3/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立屋島中学校 | 2/13-2/17 | 1名 |
| 教育学部4年 | 三木町立三木中学校 | 2/6-2/10 | 1名 |
| 教育学部4年 | 高松市立勝賀中学校 | 2/27-3/3 | 1名 |
| 教育学部4年 | 坂出市立坂出小学校 | 2/20-2/27 | 1名 |

6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

7. 事前・事後指導

(1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
 - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度），教職支援グループを通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

(2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ，教職支援グループを通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

8. その他

研修の内容・方法等の詳細については，香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

令和 4 年度 第 1 期教育実践集中講座

魅力のある職業 先生になろう。

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員になるための準備講座である。
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

- 【担 当】 客員教授 藤崎 裕子（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）
 客員教授 尼子 智悠（香川県教育センター 教職員研修課 指導主事）
 客員教授 日下 哲也（公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 専任幹事）

【日 程】

| 日 時 | 場 所 | 主 な 内 容 | 備 考 |
|---------------------------|-------------------|---|---|
| 5月21日(土) (13:00~17:00) | 323 講義室 | <講義・演習> (藤崎・尼子) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ① (藤崎)」 「教育法規とケース・スタディ② (尼子)」 | 「教職研究Ⅰ (教育法規入門)」の集中講義として行う。 (豊島・倉野・谷口) |
| 6月4日(土) (13:00~17:00) | 621 講義室 | <講義・演習> (藤崎・尼子) 【教育法規】 「教育法規とケース・スタディ③ (藤崎)」 「教育法規とケース・スタディ④ (尼子)」 | 「教職研究Ⅰ (教育法規入門)」の集中講義として行う。 (豊島・倉野・谷口) |
| 6月20日(月) (14:40~16:10) | 415 講義室 | <講義・演習> (尼子) 【道徳教育】 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」 | 「道徳教育論 (イ) (共)」の講義として行う。 (櫻井) |
| 7月4日(月) (16:20~17:50) | 611 教授法 演習室 | <講義・演習> (日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」 | 「学級経営論 (イ)」の講義として行う。 (毛利) |
| 9月14日(水) (13:00~15:00) | 415 講義室 他 | <講義・演習> (藤崎) 【子ども理解】 「『子ども理解』と授業実践」 「附属学校参観の心がまえ」 | 「教育実践プレ演習」の講義として行う。 (松下) |

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先

附属教職支援開発センター事務室 TEL : 087-832-1683

令和4年度 第2期教育実践集中講座

プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

【趣旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担当】客員教授 藤崎 裕子 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)

客員教授 尼子 智悠 (香川県教育センター 教職員研修課 指導主事)

客員教授 日下 哲也 (公益財団法人 日本教育公務員弘済会香川支部 専任幹事)

【日程】

| 日 時 | 場所 | 主 な 内 容 | 備 考 |
|----------------------------|-----------------|---|-------------------------------------|
| 10月14日(金) (8:50~12:00) | オンライン | <講義・演習>(日下) 【教育課題の探究】 「今日子ども状況と道徳教育」 | 「保育・教職実践演習、教職実践演習」の講義として行う。 (山岸) |
| 10月21日(金) (8:50~12:00) | オンライン | <講義・演習>(尼子) 【教育課題の探究】 「日本の学力問題」 | 「保育・教職実践演習、教職実践演習」の講義として行う。 (山岸) |
| 11月7日(月) (8:50~10:20) | 611 講義室 他 | <講義・演習>(尼子・藤崎) 【教職理解】 「学校について理解しよう④」 小学校(尼子)・中学校(藤崎) | 「教職概論(イ)(ロ)(共)」の講義として行う。 (松下) |
| 11月7日(月) (18:00~19:30) | 415 講義室 | <講義・演習>(藤崎) 【教育の最新情報】① 「教師に求められる力」 | 「教職研究Ⅱ」の講義として行う。 (豊島・倉野・谷口) |
| 11月9日(水) (13:00~16:10) | 415 講義室 | <講義・演習>(尼子・日下) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」 シンポジウム・助言 | 「教育実践演習」(教育実習事後指導)の講義として行う。 (山岸) |
| 11月17日(木) (13:00~14:30) | 415 講義室 | <講義・演習>(藤崎) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「中学校の事例を中心に」 | 「生徒指導・進路指導論」の講義として行う。 (毛利) |
| 11月24日(木) (13:00~14:30) | 415 講義室 | <講義・演習>(尼子) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導の実際」 | 「生徒指導・進路指導論」の講義として行う。 (毛利) |

| | | | |
|----------------------------|-----------------|---|---|
| 11月25日(金) (8:50~12:30) | オンライ ン | <講義・演習> (藤崎・日下) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 小学校(日下)・中学校(藤崎) | 「保育・教職実践演習、 教職実践演習」の講義 として行う。 (山岸) |
| 11月28日(月) (8:50~10:20) | 611 講義室 他 | <講義・演習> (尼子・日下) 【教職理解】 「授業について考える よい授業とは・よい保育とは」 | 「教職概論(イ)(ロ) (共)」の講義として行 う。 (松下) |
| 11月28日(月) (18:00~19:30) | 415 講義室 | <講義・演習> (尼子) 【教育の最新情報】③ 「教育課程と学校評価」 | 「教職研究Ⅱ」の 講義として行う。 (豊島・倉野・谷口) |
| 12月1日(木) (13:00~14:30) | 415 講義室 | <講義・演習> (日下) 【生徒指導・進路指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導の実際」 | 「生徒指導・進路指導 論」の講義として行う。 (毛利) |
| 12月14日(水) (10:30~12:00) | 331 講義室 | <講義・演習> (日下) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」 | 「人権教育」の講義と して行う。 (櫻井) |
| 1月16日(月) (16:20~17:50) | 教授法 演習室 | <講義・演習> (日下) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」 | 「学級経営論(ロ)」の 講義として行う。 (毛利) |
| 1月23日(月) (13:00~14:30) | 教授法 演習室 | <講義・演習> (尼子) 【道徳教育】ケーススタディ 「道徳科の多様な授業づくり ～心を耕す道徳の授業～」 | 「道徳教育論(ロ)」の 講義として行う。 (櫻井) |
| 1月30日(月) (16:20~17:50) | 教授法 演習室 | <講義・演習> (日下) 【子ども理解】 場面指導(ロールプレイ) | 「学級経営論(ロ)」の 講義として行う。 (毛利) |
| 1月30日(月) (18:00~19:30) | 611 講義室 | <講義・演習> (日下) 「学級で育つ子どもたちのために」 | 「教職研究Ⅱ」の 講義として行う。 (豊島・倉野・谷口) |
| 2月6日(月) (16:20~17:50) | 教授法 演習室 | <講義・演習> (日下) 【子ども理解】 場面指導(ロールプレイ) | 「学級経営論(ロ)」の 講義として行う。 (毛利) |

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先

附属教職支援開発センター事務室 TEL: 087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として ～20年目の取組と今後の展望～

豊島 修・谷口弓恵・倉野晴代

1 今年度の取り組みの重点

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。このプログラムにおいて、交流人事教員の教職支援をまとめたものが表1「4か年を見通した教職支援」である。このうち、下線を引いた授業の概要を以下に紹介する。

| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 | | | | |
|--------|--------|------------|--|--|------------------------------------|----------------------------|------------------------------|---------------------------------|
| | 学校理解 | 子ども理解 | 授業理解 | 教職理解 | | | | |
| 授業 | 大学入門ゼミ | 教職概論(イ)(ロ) | 教育実践プレ演習 教育学チュートリアルI 教育学演習IA 学校教育課程論A | 初等授業研究 生活科授業研究 教育学演習IB 学校教育課程論B | 教育実践演習 教育学演習IIA 教育学チュートリアルII | 教職研究II 教育学演習IIB 人権教育 | 授業実践論 教育学演習IIIA 教育法規入門 | 教職実践演習 教育学演習IIIB 人権教育実践演習 |
| 就職セミナー | | | 就職ガイダンス | | 就職ガイダンス 筆記対策 | 就職ガイダンス 筆記対策 | 集団面接 個人面接 模擬授業 | 卒業前セミナー 公立校インターンシップガイダンス |
| その他 | 教育相談 | 採用試験説明会 | 採用試験説明会 | | 教職自主サークル採用試験説明会 | 教職自主サークル採用試験説明会 | | |

【表1 4か年を見通した教職支援】

□ …交流人事教員が中心となる授業等

(1) 学校現場に即した授業の充実

「授業実践論」において学生は、基本的な授業づくり（課題の設定、発問、板書の仕方等）を踏まえて授業構想を立て、模擬授業や事後討議を行うことを通して、実践的な授業研究について学んでいる。他に、模擬面接・集団活動も行い、教育への見方・考え方を深めることができるようにしている。本授業は、交流人事教員3名が中心となり指導に当たっているが、教員採用試験に向けた「教職セミナー」との連携を図ることで、多くの学部教員が模擬授業、模擬面接・集団活動等の指導に関わることができるようにした。このことにより、教育学部の全教職員で4年生の教職への道を支援する体制を整えることができた。

また、教員を目指すほとんどの4年生が受講する「教育法規入門」では、基本的な教育法規（教基法、学校法、地公法、教特法等）及び答申・通知等について、事例をもとにしながら解説を加え、理解を深めるとともに、法令遵守精神の高揚を図っている。授業実践論と同じく、客員教授とも連携を図り、授業の質を高めることができています。

次に、豊島と倉野が中心となって行っている2つの授業を紹介する。1つ目は4年生後期「教職実践演習」の授業である。そこでは学級経営や生徒指導について、学校の現状の中での児童生徒への具体的な指導法等を、演習も交えて指導している。

2つ目は、教職を目指す自覚がより高まる時期の3年生に行っている「教職研究II」（後期）の授業である。「就職セミナー」や「教職自主サークル」（学生の自主勉強会）と連携、協力しながら、さまざまなテーマで授業を行った。学校現場の各分野で活躍されている方々の講義から教職の基本的実践に

ついて学び、教育の最新事情についての理解を深めることができた。先輩の現役教員の講話から教育現場の現状を知ったり、4年生からは今年の教員採用試験に向けての助言を受けたりした。授業におけるこれらの活動は、3年生にとって教職への意欲を高める大きな契機となっている。

4年生対象に豊島が拉致問題に関する授業実践事業に取り組み、「人権教育実践演習」の集中講義を実施した。このように、担当する各授業において、交流人事教員がこれまで学校現場で培ってきたそれぞれの専門性を生かし、工夫した授業を行っているところである。

表1の授業以外の、教職大学院においては、谷口が他の大学院教員と連携しながら授業を担当している。「道徳授業の実践研究」では、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、「授業研究の実際」、「指導法分析と学習支援」では、授業における質的評価のあり方や、授業分析・授業研究について、演習を交えながら授業を行った。いずれも学校現場の実践事例をもとにして演習や協議を組み入れるなど、院生の学びが深まるよう支援を行っている。

(2) 学生への個別指導（演習ゼミ）

豊島、倉野は他教員とも連携し、「教職実践ゼミ」において学生を指導する演習ゼミ指導を行っている。3年生5名4年生5名の指導を担当し、4年次は卒業論文の研究テーマに即して、国公立学校園における保育・授業参観や教師へのインタビュー、また幼児・児童の観察等を行っている。幼児・児童の育ち・学びの様相をとらえ学びを広げ深める活動に取り組み、教育や教職への関心を高め、求められる教員としての資質・能力の向上を目指している。

また、谷口は「教職実践研究」として、本年度は、院生2名を主担当として指導を担当し、研究テーマに基づいた指導を行っている。院生が週1日継続的に行っている公立校での実習を通して得た実践的学びをさらに深められるよう指導し、教職大学院のテーマである「理論と実践の融合」の実現に努めている。

(3) 教育委員会・各学校との連携

今年度も従来通り、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めてきた。地域ブロック研修会での講師、研究大会での指導助言者として、県下の学校等における様々な教育活動推進に尽力してきた。例年4年生が実地研修として参加している香小研高松支部教科研修会においても、各教科部会や学校と事前の連絡調整を行っているところであるが、昨年度、今年度はコロナ禍のため学生の参加は行っていない。

各学校から依頼のあった学習支援や校外活動へのサポート等については、実施に向けて連絡・調整を行った。「生活科授業研究」では、高松市立新番丁小学校の1年生全員を香川大学に招待し、構内を散策しながら「秋みつけ」の授業を学生主体で行った。他にも、卒業研究に関わる授業参観や子どもたちに絵本の読み聞かせを行う等、学生が実際の学校現場の様子を肌で感じながら学ぶことができるよう配慮、連携に努めている。

これまで「キャリア教育」や「進路ガイダンス」で出前授業のニーズが高かった高校との連携であるが、昨年「総合探究」の分野で支援及び連携を推進していくこととなった。派遣依頼のあった高校へ各校の実情に合わせて、講師を派遣した。今年は、従来からの坂出高校に加えて、高松西高校に講師を派遣した。また高松西、高松桜井高校には、学生をグループ研究アドバイザーとして派遣し、高校生に対して指導、助言を行うなど高大連携に継続的に取り組んでいるところである。

「秋みつけ」授業の様子



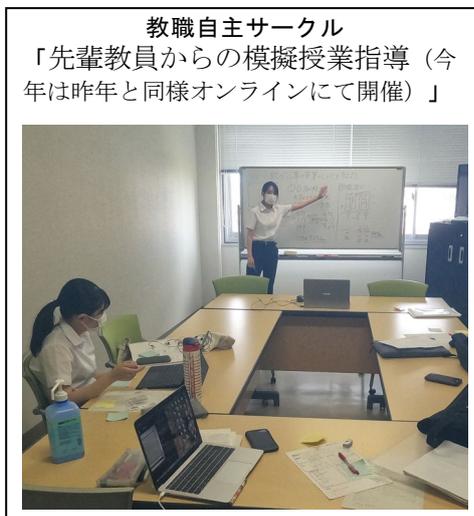
学生によるグループ研究指導の様子



（４）教員採用選考試験合格へ向けてのサポート～教職自主サークルと個別指導・相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（学生の自主勉強会：毎週月曜日 18:00～19:30）や、「個別指導・相談」（教員の空き時間等活用）等を通して教職を志す学生を支援している。「教職自主サークル」には教員志望の学生の多くが参加し、互いに研鑽する場となっている。交流人事教員 3 名は毎回オブザーバーとして参加し、指導・助言を行っている。集団討論や模擬授業等に関する各自自治体の採用試験の情報・意見交換を行っており、本学ならではの伝統的取組だと内外の評価も高い。交流人事教員は、これらについて学校現場に即した情報を教えるとともに、教育課題をどう捉え、対応するか等、教員としての心構えや仕事の実際について助言を行っている。さらに、8 月には二次試験対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を、さらに 11 月には、教職 2 年目の卒業生から、教職の実際について講話を聴く「卒業生と在校生との交流会」を「教職研究Ⅱ」の授業とタイアップして実施し、学生にとって有意義な学びとなっている。

また、採用試験に向けて個別、グループ指導を望む学生も多くおり、採用試験の願書作成指導、模擬授業、面接・集団活動について個別指導を行っている。これらの指導には、授業以外の多くの時間を要するが、個々の学生とのつながりや理解を深める貴重な機会となっており、交流人事教員が特に力を入れている支援活動である。



（５）大学行事を通しての学生支援

例年 10 月に行われる「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」では、「香大生とあそぼう おはなしの国 2022」の講座において、学生と子どもたちがふれ合うことができるよう、学生への支援補助を行った。教育実習等とはまた違った環境の中で子どもたちとふれあい、クイズや創作劇の披露を通して語りかけ方を学ぶよい機会となった。コロナ禍のなかで教育領域の 2 年生が中心となって企画運営に携わった。学生にとっては、子どもたちと関わる貴重な学びの機会になったとともに、自信を深める機会ともなった。また、香川大学教育学部附属幼稚園高松園舎で発表の機会をもち、先の経験を生かして取り組んでいる。



2 今後の課題

現体制（学部担当 2 名、教職大学院 1 名）での取組が始まり 7 年目となる。これまでの交流人事教員が築いてきた功績を受け継ぎながら、さらなる効率化、授業の質の向上を目指している。平成 29 年度から構築された新たなシステム（表 1）を基に、様々な授業科目・内容・体制等について周りの教員と連携して取り組んでいるところである。

一昨年度から行われるようになった遠隔授業では、対面授業とオンライン配信、オンデマンド配信といったハイブリッドな授業が求められている。遠隔授業ならではの価値を生かすため、新型コロナウイルスの感染防止対策に限らず、これからは戦略的に対面授業と遠隔授業を使い分けていく必要がある。そのために交流人事教員もデジタル技術などを積極的に活用していく情報活用リテラシーをさらに身に付けていくことが今後の課題である。

教員の総合的な資質能力の向上が求められている今、交流人事教員それぞれの教職経験から、教職の魅力ややり甲斐について学生に伝えることを通して、心構えを育て、教職の技能を高めていくことが重要である。交流人事教員としての重責を自覚し、将来の教育界を支える優秀な人材の育成に、今後ともしっかりと取り組んでいく所存である。

3 20年目の活動内容

(※ コロナ禍により開催が中止となった会・行事が多くあり、今年度も例年に比べ活動が減少している。)

学内における活動

(1) 委員会等

<豊島> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

<谷口> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、教職大学院専攻委員

<倉野> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

(2) 授業等

<豊島> 教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論(ロ)・B・共、教職概論(イ)・(ロ)・共、教育法規入門、教職研究Ⅱ、授業実践論、教育実践演習、教職実践演習、人権教育、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

<谷口> 【教職大学院】 指導法分析と学習支援、道徳授業の実践研究、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、授業研究の実際、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

【学部】 学校教育課程論A、教職概論(イ)・(ロ)・共、教育法規入門、教職研究Ⅱ、授業実践論、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル

<倉野> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアル、学校教育課程論A・B、教職概論(イ)・(ロ)・共、授業実践論、教育法規入門、教職研究Ⅱ、教職実践演習、生活科授業研究、就職セミナー、教職自主サークル、卒論指導・主査、卒論副査

(3) その他

<豊島> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当

<谷口> 卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

<倉野> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

学外における社会的活動

<豊島> 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、放送大学講師、大学入学共通テスト試験(監督)
(2023.1)

<谷口> 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、放送大学講師、大学入学共通テスト試験(監督)
(2023.1)

<倉野> 香川県教職員連盟講師部会研修会講師(委員等) 香川県がん教育推進委員、
大学入学共通テスト試験(監督)(2023.1)

令和4年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、期日

| | 開 設 科 目 | 受講者数 | 期 日 |
|-----|-----------------|------|-----------------|
| 講義Ⅰ | 聴覚障害児の心理・生理及び病理 | 85名 | 8月2日(火)・3日(水) |
| 講義Ⅱ | 視覚障害児の教育課程及び指導法 | 63名 | 8月26日(金)・27日(土) |
| 講義Ⅲ | 重複・発達障害児の教育総論 | 73名 | 9月3日(土)・4日(日) |
| 講義Ⅳ | 肢体不自由児の教育総論 | 79名 | 9月17日(土)・18日(日) |

3 日程 (全講義同一日程)

| 時 間 | 8:50 | 9:10 | 10:40 | 10:55 | 12:25 | 13:35 | 15:05 | 15:20 | 16:50 |
|-----|------|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第1日 | 受付 | オリエンテーション | 講義①② | 休憩 | 講義③④ | 昼食 | 講義⑤⑥ | 休憩 | 講義⑦⑧ |
| 第2日 | | 受 付 | 講義⑨⑩ | 休憩 | 講義⑪⑫ | 昼食 | 講義⑬⑭ | 休憩 | 講義⑮⑯ |

4 講 師 (香川大学)

| | 期 日 | 科 目 | 講 師 |
|-----|-------|---------------|----------------------|
| 講義Ⅲ | 9/3・4 | 重複・発達障害児の教育総論 | 教授 武藏 博文 教授 小方 朋子 |

令和4年度 管理職候補者研修会 主幹教諭・指導教諭・教諭用

◎印（第1回、第8回研修）は全員参加

2年目以上の者は、第2回～第7回研修から2回以上選択（第1回研修会で参加希望をとる）

| 回 | 月日 (曜) | 研修内容 | | 会場 | 講師 |
|---|-------------------|--|------------------------------------|-----------------------------|--|
| | | 講義等 | 法規演習 | | |
| 1 | 5月 24日 (火) | ◎義務教育課長講話 ◎管理職の心構え(補佐) ◎オリエンテーション ◎香川の教育課題 (保健体育、特別支援教育、 人権・同和教育等) | ◎教育法規の概要 | 県教育センター (1中・2中・5) | 義務教育課長 義務教育課課長補佐 事務局職員 |
| 2 | 6月 17日 (金) | 【オンライン中継】(午前のみ) 管理職の職務(中学校長) 教頭の役割と実務(教頭) 市町教委教育長講話 学校と市町教育委員会 市町教委と教育事務所 | 服務 | 県教育センター (大・5) | 市町教委教育長 市町教委事務局職員 事務局職員 現職校長・教頭 |
| 3 | 8月 2日 (火) | 【オンライン研修】 学校の危機管理について ・学校安全 ・生徒指導 | 講義に法規内容含 む | 各学校または、 県教育センター (ICT) | 香川大学 |
| 4 | 8月 3日 (水) | 【オンライン研修】 学校危機管理について ・教員のメンタルヘルス ・保護者・地域住民との協働 | 講義に法規内容含 む | 各学校または、 県教育センター (ICT) | 香川大学 |
| 5 | 8月 18日 (木) | 【オンライン中継】 ・管理職の職務(小学校長) ・教頭の役割と実務(教頭) | 児童生徒の就学 研修 児童生徒の懲戒 ハラスメント | 県教育センター (大・7) | 現職校長・教頭 事務局職員 |
| 6 | 9月 8日 (木) | 目標管理研修 評定者研修 | 講義に法規内容含 む | 県教育センター (大・5) | 現職校長 事務局職員 |
| 7 | 10月 14日 (金) | 企業の組織マネジメント 学校組織マネジメント カリキュラム・マネジメント | 分限・懲戒 教育課程 学校保健・安全 | 県教育センター (大・6) | 外部講師 事務局職員 |
| 8 | 1月 17日 (火) | ◎免許更新制(変更可能性有) ◎学校事務 ◎公務災害 ◎学校事故への対応 ◎教育長講話 ◎1年間のまとめ | 講義に法規内容含 む | 県教育センター (大) | 教育長 事務局職員 |

※第1回～第8回：全日研修 9:00～16:25 受付 8:45～9:00

※県教育センター：高松市郷東町 587-1（第3回、第4回は、オンライン研修のため、各学校での受講可）

※持参物：教育小六法、香川県教育関係職員事務必携、各市町教育委員会の管理運営規則及び含む規則

「信頼される教師を目指して」、「わいせつセクハラ事例集」「個人情報適切な取り扱いと流出の未然防止に向けて」

※第3回、第4回は、教職大学院連携研修 405、406「学校の危機管理研究Ⅰ-①、②」として実施。

この2回の講義内容の個別事例研究を、香川大学教職大学院教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅱ」として、9月10日(土)、9月17日(土)に開講する。参加は自由。

※今後の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等により、内容等が変更になる場合があります。

教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの実施について
～教員研修連携科目と教職大学院連携研修の構築～

学校力開発コース

1. プログラム実施の背景・趣旨・目的

学校を取り巻く環境の変化に伴う多様化・複雑化した問題や課題が生起しており、諸課題を主体的に受け止めて解決を図るため、香川県教員等人材育成方針及び指標に基づいた高度な実務能力を備えたスクールリーダーの育成が求められている。他方、教員の志願者のみならず管理職候補者登録選考試験の受験者数が減少傾向にあり、次代の学校教育を推進する人材の育成が喫緊の課題となっている。

そこで教職大学院ではスクールリーダーの育成に重点的に取り組むことを重点課題とし、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携協力を強化することにより、教員研修の中核パートナーとして、教員の養成と研修の一体的な取り組みの推進に寄与したいと考えている。

2. 現状

香川大学教職大学院は、平成 31 年度から 2 年間独立行政法人教職員支援機構の事業委託を受け、「教育委員会との連携によるスクールリーダー養成・研修プログラムの開発～ラーニングポイント制の構築に向けて～」について検討を行い、連携・協働事業として次の 3 点が実現している。

- ① 香川県教育センターの教員研修体系に「教職大学院連携研修」^{※1}が位置付けられている。
※1 「教職大学院連携研修」は、教職大学院科目の一部を教員研修として提供
 - ・教職大学院連携研修講座 「資質・能力を育む教科の授業づくり」
「道徳科の授業づくり」
「授業支援システムを活用した学習活動の創造」
「授業における特別支援教育」
「学校の危機管理研究Ⅰ—①」 「学校の危機管理研究Ⅰ—②」
- ② 教職大学院学校力開発コース科目として、スクールリーダーの養成を目指すことを目的として教員研修との連携を図った「教員研修連携科目」^{※2}を開設している。
※2 「学校の危機管理研究Ⅰ」集中：2 日間（管理職候補者研修に含む）
「学校の危機管理研究Ⅱ」集中：2 日間（土曜日開催・希望履修）
なお、「学校の危機管理研究Ⅱ」を希望履修した管理職候補者が 3 年以内に教頭として徴用された場合は、「新任教頭研修」の当該内容に係る研修を免除することができる。
- ③ 研修形態としては、オンラインで受講する同期型遠隔研修^{※3}を実施した。
※3 「資質・能力を育む教科の授業づくり」「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」は、年度当初から実施を予定。
「道徳科の授業づくり」「授業における特別支援教育」は、コロナ禍により同期型遠隔研修に変更

3. 課題と本年度の取組

(1) 課題

- ① スクールリーダー、とりわけ学校管理職を志望する教員の減少に伴い組織的・計画的に人材開発を行う必要がある。
- ② 教員の働き方改革が進められている中「学び続ける教員像」の具現化を図るため、教員が「学びたい時に学べる」研修環境を整備する観点から教員研修における「研修受講履歴記録」の在り方、「ラーニングポイント制」の導入及び教員研修体系の多様化を検討する必要がある。
- ③ 香川県教員等人材育成方針及び育成指標の改正が予定されており、その趣旨を踏まえて「教職大学院連携研修」及び「教員研修連携科目」について内容の再検討が必要である。
- ④ 上記①から③について具体的な方策や作業工程などを検討し、教員研修に係る教職大学院と香川県教育委員会・香川県教育センターとの一層の連携協力を図るには、組織体制を強化する必要がある。

(2) 本年度の取組

検討にあたっては、本連携協議会の専門委員会の下、平成 31 年度に設置された「教員研修システム共同開発ワーキング」において、香川大学教職大学院、香川県教育委員会・香川県教育センター及び中核市として管内教員の研修主体となっている高松市教育委員会・高松市総合教育センターの各担当により協議を行っている。

資料 1. 教員研修システム共同開発ワーキングの開催状況

| 回 | 開催日 | 検討内容 |
|-------|-------------------------|---|
| 第 1 回 | 令和 4 年 5 月 17 日 | <ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る連携・協働の実績について ○教員研修に係る令和 4 年度の取組について ○今年度の検討課題について <ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院と連携した教員研修の在り方 (研修受講履歴(ラーニングログ)及びラーニングポイント制) ・スクールリーダーを目指す教員の資質・能力の向上に係る研修の在り方 ・遠隔研修(同期型、非同期型、ハイブリッド型)の在り方 |
| 第 2 回 | 令和 4 年 6 月 21 日 | <ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る教育委員会の取組 ○教職大学院連携研修について(県教育センター・市総合研究センター) ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」について(教職大学院) ○「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会等の動向について <ul style="list-style-type: none"> ・研究受講履歴(ラーニングログ)及びラーニングポイント制 ・スクールリーダーを目指す教育の資質・能力の向上に係る研修の在り方 |
| 第 3 回 | 令和 4 年 7 月 26 日 | <ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る教育委員会の取組 ○教職大学院連携研修等について(県教育センター・市総合教育センター) ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」の受講状況等について(教職大学院) ○中央教育審議会における審議状況を踏まえた今後の施策について <ul style="list-style-type: none"> ・研究受講履歴(ラーニングログ)及びラーニングポイント制 ・スクールリーダーを目指す教育の資質・能力の向上に係る研修の在り方 |
| 第 4 回 | 令和 4 年 10 月 18 日 | <ul style="list-style-type: none"> ○教員研修に係る教育委員会の取組 ○教職大学院連携研修等について(県教育センター・市総合教育センター) ○教員研修連携科目「学校の危機管理研究Ⅰ・Ⅱ」の受講状況等について(教職大学院) ○学校力開発コースにおける探究実習の充実について ○中央教育審議会における審議状況を踏まえた今後の施策について <ul style="list-style-type: none"> ・研究受講履歴(ラーニングログ)及びラーニングポイント制 ・スクールリーダーを目指す教育の資質・能力の向上に係る研修の在り方 ○教育委員会と教職大学院との一層の連携・協働について <ul style="list-style-type: none"> ・先導的な取組に係る実地調査 <ul style="list-style-type: none"> ①山梨県立日川高等学校 ②山梨県総合教育センター ③常葉大学教職大学院 ④静岡県教育委員会 |
| 第 5 回 | 令和 4 年 12 月 20 日 | <ul style="list-style-type: none"> ○令和 5 年度教員研修に係る連携・協働について ○教員等人材育成指標(改正)との関連を図ったラーニングポイント制の導入に向けて |
| 第 6 回 | 令和 5 年 1 月 17 日 (予定) | <ul style="list-style-type: none"> ○研修内容と教員等人材育成指標との関連表に基づく、研修内容の検討について ○令和 5 年度における遠隔研修について |
| 第 7 回 | 令和 5 年 2 月 13 日 (予定) | <ul style="list-style-type: none"> ○今年度の検討事項のまとめについて ○令和 5 年度教員研修について |

資料 2. 令和 5 年度教職大学院連携研修及び教員研修連携科目実施予定

| 教職大学院連携研修講座名 | 実施日 | 研修形態 | 定員 |
|-------------------------|------------|--------|---------|
| 401 資質・能力を育む教科の授業づくり | 8月 4日 (金) | 双方向配信型 | 70人 |
| 402 道徳科の授業づくり | 8月 2日 (水) | 集合型 | 50人 |
| 403 教育効果を高めるための ICT 活用法 | 8月 4日 (金) | 集合型 | 30人+30人 |
| 404 授業における特別支援教育 | 7月 27日 (木) | 集合型 | 50人 |
| 405 学校の危機管理研究Ⅰ―① | 8月 2日 (水) | 双方向配信型 | 120人 |
| 406 学校の危機管理研究Ⅰ―② | 8月 3日 (木) | 双方向配信型 | 120人 |

| 教員研修連携科目 | 実施日 | 研修形態 | 定員 |
|---------------------|------------|--------|------|
| (希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ―① | 9月 9日 (土) | 双方向配信型 | 100人 |
| (希望受講) 学校の危機管理研究Ⅱ―② | 9月 16日 (土) | 双方向配信型 | 100人 |

個を活かす協働的な学びの推進モデル校事業

1 趣旨について

学力の向上に向け、児童生徒同士による学び合い、多様な体験活動の重要性が高まる中で、協働的な学びを実現し、児童生徒が主体となって興味・関心に応じた課題や深める価値のある課題を設定し、多様性や協働性を発揮しながら課題解決に取り組み、自己の学習成果を実感できるような授業づくりが求められる。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の学力の向上に資する。

2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を5校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (3) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (5) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (7) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

| 学校名 | 日時 | 訪問者 | 内容 |
|-------------|------------------------------|----------|-------------------------------------|
| 坂出市立坂出小学校 | 令和4年6月24日（金） 14:00～16:30 | 教授 北林雅洋 | 理科学習の単元化・教材化について、講話 |
| 琴平町立琴平中学校 | 令和4年8月22日（月） 10:30～11:30 | 准教授 清水顕人 | 主体的・協働的な学びについて、講話 |
| 琴平町立琴平中学校 | 令和4年10月5日（水） 14:00～16:20 | 准教授 清水顕人 | 数学科の研究授業後の討議会において、指導・助言 |
| 綾川町立滝宮小学校 | 令和4年6月9日（木） 14:05～16:30 | 准教授 清水顕人 | 道徳科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言 |
| 綾川町立滝宮小学校 | 令和4年9月21日（水） 14:05～16:30 | 准教授 清水顕人 | 国語科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言 |
| 綾川町立滝宮小学校 | 令和4年10月13日（木） 14:05～16:30 | 准教授 清水顕人 | 道徳科の研究授業後の討議会において、学校の研究の視点について指導・助言 |
| 丸亀市立城西小学校 | 令和4年6月20日（月） 8:20～15:30 | 教授 高橋尚志 | 理科の授業を参観し、指導・助言 |
| 丸亀市立城西小学校 | 令和4年11月11日（金） 8:10～16:00 | 教授 高橋尚志 | 理科の授業を参観し、指導・助言 |
| 高松市立香川第一中学校 | 令和4年6月15日（水） 13:45～17:00 | 准教授 岡田 涼 | 特別活動の研究授業後の討議会において、指導・助言 |
| 高松市立香川第一中学校 | 令和4年11月18日（金） 15:00～16:30 | 准教授 岡田 涼 | アンケート分析と今後の研究の方向性の整合性について、指導・助言 |

| | | | |
|-------------|----------------------------|----------|-------------------------|
| 高松市立香川第一中学校 | 令和5年2月9日(木) 13:30~16:00 | 准教授 岡田 涼 | 英語科の研究授業後の討議会において、指導・助言 |
|-------------|----------------------------|----------|-------------------------|

※ モデル校の研究内容

- 坂出市立坂出小学校
研究主題 一人一人が 感じ・考え・実践し ともに分かち合う児童の育成
- 琴平町立琴平中学校
研究主題 社会性を育む協働的・探究的な学びの充実に向けた指導体制・方法の研究(2年次)
- 綾川町立滝宮小学校
研究主題 つながり分かち合う喜びを通して 児童の自立を促す授業づくり(3年次)
- 丸亀市立城西小学校
研究主題 納得するまで追究し、みんなで考え、解決しようとする子の育成
- 高松市立香川第一中学校
研究主題 自他のよさを認め、主体的に未来を切り拓く集団づくり

教育の情報化推進モデル校事業

1 趣旨について

将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用して他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要となる。またその指導過程において ICT の活用が不可欠である。

本事業では、モデル校を指定して研究を市町に委託して行い、その成果を普及することで県内の児童生徒の情報活用能力の育成に資する。

2 事業実施の概要

- (1) 香川県教育委員会は、予算の範囲内で、モデル校を2校程度指定し、当該校を設置する市町との間で委託契約を締結する。
- (2) モデル校は、香川県教育センターが実施する調査研究事業に協力する。
- (3) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (4) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図る。
- (6) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (7) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (8) 香川県教育委員会は、市町（学校組合）教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

| 学校名 | 日時 | 訪問者 | 内容 |
|------------|------------------------------|----------|---|
| 善通寺市立筆岡小学校 | 令和4年7月1日（金） 14:30～16:30 | 准教授 松下幸司 | 総合的な学習の時間の研究授業後の討議会において、指導・助言 |
| 善通寺市立筆岡小学校 | 令和4年7月28日（木） 14:00～15:00 | 准教授 松下幸司 | 学びをより効率的にまとめ、発信するために使用するARアプリケーションの活用について、指導・助言 |
| 善通寺市立筆岡小学校 | 令和4年8月23日（火） 10:30～11:30 | 准教授 松下幸司 | ARアプリケーションの活用や教師の手立てについて60分間指導助言 |
| 善通寺市立筆岡小学校 | 令和5年2月18日（土） 8:30～12:00 | 准教授 松下幸司 | ARアプリケーションを活用して、ふるさと学習の学びを地域に紹介する活動を行った後、30分間指導講評 |
| 三木町立田中小学校 | 令和4年6月9日（木） 14:00～15:00 | 准教授 松下幸司 | 授業におけるICT機器の効果的な活用について、講話 |
| 三木町立田中小学校 | 令和4年6月30日（木） 13:25～16:00 | 准教授 松下幸司 | 国語科の研究授業後の討議会において、指導・助言 |
| 三木町立田中小学校 | 令和4年9月22日（木） 13:25～16:00 | 准教授 松下幸司 | 図画工作の研究授業後の討議会において、指導・助言 |
| 三木町立田中小学校 | 令和4年10月20日（木） 13:25～16:00 | 准教授 松下幸司 | 生活科の研究授業後の討議会において、指導・助言 |

※ モデル校の研究内容

■ 善通寺市立筆岡小学校

研究主題 地域ふるさと学習の発信方法としてのICT機器の活用について

■ 三木町立田中小学校

研究主題 自ら課題を見つけ、生き生きと学び合う児童の育成

幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園・認定こども園に派遣することによって、「香川県就学前教育振興指針」（令和2年2月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園（幼稚園型認定こども園を含む。）及び幼保連携型認定こども園（以下、「幼稚園等」という。）と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園等における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者

| No. | 氏名 | 役職・分野 |
|-----|-------|------------------|
| 1 | 片岡 元子 | 香川大学教育学部教授・幼児教育 |
| 2 | 松本 博雄 | 香川大学教育学部教授・幼児教育 |
| 3 | 松井 剛太 | 香川大学教育学部准教授・幼児教育 |
| 4 | 吉川 暢子 | 香川大学教育学部准教授・幼児教育 |
| 5 | 金子 之史 | 香川大学名誉教授・理科教育 |

- (2) 県教育委員会指導主事

2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園等の申請に基づき、幼稚園等を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

3 派遣実績（令和4年度：7市町11園）

| | 園名 | 訪問日 | 研修内容 | 支援員 |
|---|--------------|---------------|-----------------------------------|--------|
| 1 | 多度津町立四箇幼稚園 | 令和4年6月15日(水) | 遊びの中での教師の働きかけと、ボードを使ったより良い園内研修の方法 | 吉川暢子先生 |
| 2 | 宇多津町立宇多津幼稚園 | 令和4年7月7日(木) | 保育者の援助や環境構成の見直しを園全体での評価・改善につなぐ方法 | 金子之史先生 |
| 3 | 観音寺市立大野原こども園 | 令和4年9月7日(水) | 保育者間の共通理解や連携のあり方と、園内研修の工夫 | 片岡元子先生 |
| 4 | まんのう町立仲南こども園 | 令和4年9月15日(木) | 子どもも大人もわくわくするような保育を展開するための工夫 | 松井剛太先生 |
| 5 | 観音寺市立豊浜幼稚園 | 令和4年10月14日(金) | 園内の環境を生かした教育・保育内容の充実と、職員の連携のあり方 | 松本博雄先生 |
| 6 | 観音寺市立観音寺こども園 | 令和4年10月19日(水) | 0～5歳児の発達の流れが繋がっていくような保育のあり方 | 金子之史先生 |
| 7 | 多度津町立多度津幼稚園 | 令和4年10月26日(水) | 保育ドキュメンテーションの有効な活用方法や園内研修の工夫 | 片岡元子先生 |
| 8 | 東かがわ市立大内こども園 | 令和4年11月11日(金) | 保育のねらいや基本的生活習慣に関する保護者への発信と支援の工夫 | 吉川暢子先生 |

| | | | | |
|----|-----------|---------------|----------------------------------|--------|
| 9 | 高松市立一宮幼稚園 | 令和4年12月8日(木) | 子どもが遊びこむようになるための環境構成や適切な援助のあり方 | 松井剛太先生 |
| 10 | 丸亀市立城辰幼稚園 | 令和4年12月13日(火) | 個と集団(異年齢も含む)の関係における保育者のかかわりと援助 | 松井剛太先生 |
| 11 | 高松市立木太幼稚園 | 令和5年2月8日(水) | 小学校教育との円滑な接続を促進するための具体的な方法や保護者支援 | 松本博雄先生 |

香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科・数学科）及び質問項目の内容検討

1 委 員

| No. | 氏名 | 役職 | 分野/領域 |
|-----|-------|--------------|--------------------|
| 1 | 佐藤 明宏 | 香川大学教育学部特命教授 | |
| 2 | 松島 充 | 香川大学教育学部准教授 | 教科教育分野 数学領域 |
| 3 | 岡田 涼 | 香川大学教育学部准教授 | 教育課題研究分野 心理領域 |
| 4 | 横山 佳充 | 香川大学経済学部教授 | 経済・政策領域 経済・政策分析コース |

2 分析検討会議

| 日 時 | 主な内容 |
|------------------|---------------------------------|
| 令和4年 8月22日（月） | ○ 令和4年度全国学力・学習状況調査の報告書についての分析検討 |
| 令和5年 1月13日（金） | ○ 令和4年度香川県学習状況調査の報告書についての分析検討 |

第 21 回 未来からの留学生 を終えて

実行委員長 松島 充

第 21 回「未来からの留学生」を令和 4 年 10 月 9 日（日）に実施致しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大への懸念が完全には払しょくできない中、事前の完全予約制、午後のみの実施として接触時間を短くする等の対策を講じながらの実施となりました。事前予約では、重複も含め、延べ 2296 名のみなさまから申し込みをいただきました。その中から 280 名のみなさまに予約確定メールをお送りさせていただき、当日は約 800 名の地域のみなさまにご参加いただきました。

この未来からの留学生は、2020 年度、2021 年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により中止され、今回の第 21 回は 3 年ぶりの実施となりました。「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。各領域からの報告には、企画・実践・振り返りを通じた学びの成果や、子どもとのかかわり方への気づき等に関する学生の記述が多数見られました。これらの記述は、本事業が後者の目的をはたしていることを示しています。本事業における学生の成長を実感しております。

最後になりましたが、本事業は香川県教育委員会様のご後援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして、多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたします。



令和4年度特別支援教育コーディネーター協議会

1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

2 対象及び受講者数

| 実施日 | 開催地域 | 対 象 | 受講者数 |
|-----------|------|--|------|
| 9月 6日(火) | 中 讃 | 幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター | 65名 |
| 9月13日(火) | 仲 善 | 幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター | 36名 |
| 10月13日(木) | 西 讃 | 幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター | 59名 |
| 10月20日(木) | 東 讃 | 幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター | 35名 |
| 11月24日(木) | 高 松 | 幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター | 108名 |
| 合計 | | | 303名 |

3 研修テーマ及び講師（香川大学教育学部）

| 実施日 | 研 修 テ ー マ | 講 師 |
|-----------|---------------------------------|------------|
| 9月 6日(火) | 「学校支援体制と外部機関との連携」 | 教授 宮前 義和 |
| 9月13日(火) | 「算数・数学に学びにくさのある子どもへの支援と配慮」 | 准教授 松島 充 |
| 10月13日(木) | 「発達性読み書き障害の理解と指導・支援」 | 准教授 中島 栄美子 |
| 10月20日(木) | 「発達障害による困難さと効果的な医療的アプローチについて」 | 教授 西田 智子 |
| 11月24日(木) | 「知能検査等のアセスメントを踏まえた児童生徒への支援について」 | 教授 惠羅 修吉 |

資料 10-1

令和4年度 坂出高校教育創造コースに対する香川大学教育学部からの支援について
月日の欄の※印は別添資料あり

1. 大学教員による指導等

(1) 出前講座

| 回 | 月・日 | 学年 | 担当講師 | 講義のタイトル |
|---|--------|-----|---------|----------------------|
| 1 | 6月3日 | 2年生 | 片岡元子 先生 | 幼児期の教育—遊んで大きく育つ |
| 2 | 6月10日 | 3年生 | 山神眞一 先生 | 広い視野・深い洞察・高い理想 |
| 3 | 9月2日 | 3年生 | 坂井 聡 先生 | 障害があるとはどういうことなのか？ |
| 4 | 9月16日 | 1年生 | 清水顕人 先生 | 子どもとかわるときに一番大切にしたいこと |
| 5 | 9月30日※ | 2年生 | 小方朋子 先生 | 特別支援教育について |
| 6 | 10月21日 | 1年生 | 小方直幸 先生 | 16歳からの社会学 |
| 7 | 11月4日 | 3年生 | 野崎武司 先生 | 主体的・対話的に学ぶということ |
| 8 | 11月11日 | 1年生 | 岡田 涼 先生 | 自尊感情の心理学 |
| 9 | 2月17日 | 2年生 | 高木由美子先生 | 教職を知る—中学校生活 |

(2) グループ研究指導

| 回 | 月・日 | 学年 | 担当講師 | 内容 |
|---|-------|-------|--------------------------|------------|
| 1 | 5月6日※ | 3年生 | 小方朋子 先生、豊島修先生 鎌田高明 先生 | 研究発表会 |
| 2 | 1月27日 | 1年生 | 小方朋子 先生、他1名 | 研究発表会 |
| | | 2年生 | 小方朋子 先生、他1名 | 研究中間発表会 |
| 3 | 3月10日 | 1・2年生 | 小方朋子 先生、豊島修 先生 | 1年間の振り返り発表 |

この他、春季休業中等に、2年生は各研究室の先生方から指導を受けている。

(3) 香川大学訪問

| 月・日 | 学年 | 担当講師 | 内容 |
|------|-----|----------------|-----------------|
| 2月3日 | 1年生 | 小方朋子 先生、豊島修 先生 | 施設見学、大学説明、講義の聴講 |

2. 附属坂出学園における活動

| 学年 | 訪問先 | 回 | 月・日 | 内容 |
|-----|---------|---|--------|--------------------|
| 1年生 | 附属坂出小学校 | 1 | 5月27日 | 授業見学、給食、遊び、清掃指導等 |
| | | 2 | 6月17日※ | 技能支援、給食支援 |
| | | 3 | 9月30日※ | 昼休み体験活動（工作等） |
| | | 4 | 11月18日 | フェスタ支援、給食、遊び、清掃指導等 |
| | | 5 | 2月10日 | 授業参観、給食、遊び、清掃指導等 |
| 2年生 | 附属坂出中学校 | 1 | 7月8日 | 総合学習CANの支援活動 |
| | | 2 | 9月16日※ | 総合学習CANの支援活動 |
| | | 3 | 9月26日※ | 授業見学 |
| | | 4 | 10月21日 | 総合学習CAN発表会の支援活動 |

| | | | | |
|-----|----------|---|---------|-------------------|
| | 附属坂出幼稚園 | 1 | 5月6日 | 支援活動① |
| | | 2 | 6月10日 | 支援活動②(感染症拡大のため中止) |
| | | 3 | 10月24日※ | 支援活動③ |
| | 附属特別支援学校 | 1 | 11月14日※ | 訪問・学校説明・授業見学 |
| 3年生 | 附属坂出小学校 | 1 | 10月4日※ | 教育実習生の研究授業の見学 |

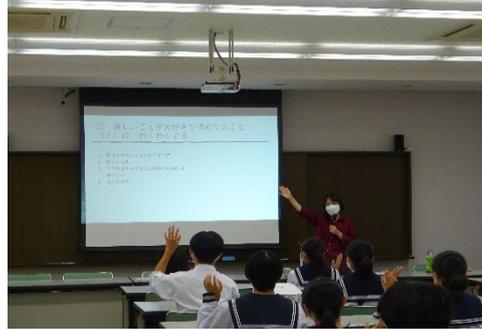
香川大学教育学部からの出前講座⑤（2年） を実施しました

9月30日、香川大学教育学部から 小方朋子先生をお招きし、「**特別支援教育について**」というテーマで、教育創造コースの2年生にご講義をいただきました。



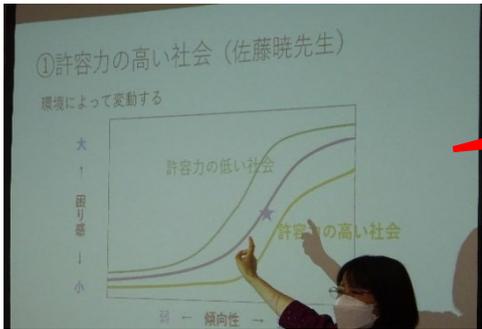
障害ってなんだろう？
 →障害は社会が決めている。 →バリアフリー法
 →合理的配慮
 →障害者差別解消法

わかりやすい障害 と わかりにくい障害 がある
 例えば、自閉スペクトラム症
 線引きは難しい。 **みんな少しずつ当てはまると思うかもしれない。**



今、世界は
 多様性を理解し
 認めていこう
 という方向に
 向いています。
共生世界をめざして

東大の中村先生の ROCKET
 異才発掘プロジェクト
 多様な個性が長所として肯定され
 活かされる教育への転換



許容力の高い社会は環境によって変動する(佐藤暁先生)

どうして手助けをしないのか？
 機会がなかった 79.5%
 接し方が分からない 12.0%

優生学
 優生思想
 について



附属特別支援学校の目標
自立

**附属特別支援学校を
 訪問の際は
 見てきてください**
 生徒が自分で動くための
 ヒントや工夫を

11月14日の香川大学教育学部
 附属特別支援学校の訪問前に、特別支援教育について広く深く教えて下さり、大変ためになりました。
小方先生、本日は本当にありがとうございました。

香川大学教育学部附属坂出小学校 支援活動③

「ロング昼休み」におじゃましました

9月30日、教育創造コースの1年生が、本校に隣接する香川大学教育学部附属坂出小学校の「ロング昼休み」の時間のなかで、いろいろな工作をして一緒に遊びました。



ブレスレットづくり



ぶんぶんレース



缶バッジづくり



くるくるシャボン玉づくり



紙ひこうきづくり



紙ひこうきづくり



写真フレームづくり



本のしおりづくり



空気砲づくり

小学生の皆さん、今日は、一緒に活動できて、とても嬉しかったです！ありがとうございました。
 高校生は、このような経験は初めてなので、最初はとても緊張していましたが、一緒になって、夢中で工作しているうちに、アツという間に終わりの時間が来てしまいました。また、小学生の皆さんと会えることを楽しみにしています。
 附属坂出小学校の先生方や教育実習生の皆さま、事前準備・当日ともにいろいろなご支援をしていただき、本当にありがとうございました。



香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動② を実施しました

9月16日、教育創造コースの2年生が、香川大学教育学部附属坂出中学校において、総合学習CANのなかで「支援活動」を行いました。

中学生にとっては3回目のCANの活動であるため、各「クラスター」の探究活動は前時よりもかなり深化しています。教育創造コース生は以下の3点に注意して、支援活動に取り組みました。

- ① 今やっていること（実験など）は、探究深化シートのどこに対応しているか。
- ② 得られた結果は、仮説や探究のゴールにどうつながっているのか。
- ③ 残された時間で、さらに突き詰めるべき部分はないか。



附属中学校の生徒さんが、多様性に富む探究活動に、極めて主体的かつ協働的に取り組んでいるため、教育創造コース生は大いに刺激を受け、いい質問やアドバイスができるように必死に努力していました。附属中学校の先生方、生徒の皆さん、このような貴重な学びの場を与えて下さり、本当にありがとうございました！

香川大学教育学部附属坂出幼稚園で 支援活動②（2年）を実施しました

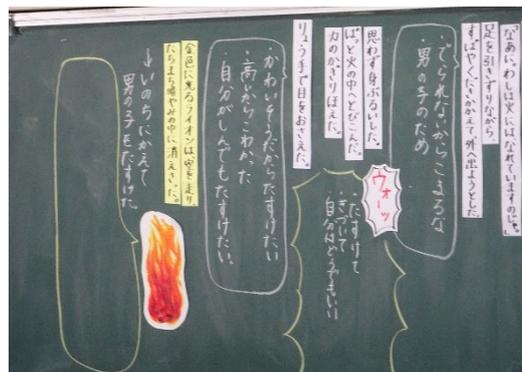
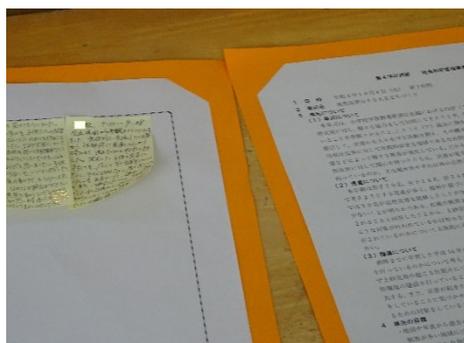
10月24日、香川大学教育学部附属坂出幼稚園において、教育創造コースの2年生が副園長先生によるガイダンスの後、園庭やリズム室、各保育室で園児と一緒に活動しました。



副園長先生からのガイダンスに従って、
子どもの「想像力」、「意思決定」、「主体性」、「考える力」などの伸長を意識しながら、しっかり遊びました。とても楽しく充実した時間でした。先生方、園児の皆さん、今日は本当にありがとうございました。

香川大学教育学部附属坂出小学校にて 「教育実習生の研究授業」を見学しました

10月4日、教育創造コースの3年生が香川大学教育学部附属坂出小学校を訪問し、香川大学教育学部の3回生が行う研究授業を見学しました。



発問の仕方、声の大きさやスピード、指導案のまとめ方、板書の提示の仕方、グループワークでの指示、ICT機器の利用法など、あらゆることを自分が授業者となったつもりで拝見しました。3年後、自分たちも、このような授業ができるよう頑張ります。

今日は本当にありがとうございました。

香川大学教育学部附属特別支援学校へ 訪問・見学に行きました

11月14日、教育創造コースの2年生が、坂出市内にある**香川大学教育学部附属特別支援学校**を訪問しました。多田副校長先生から、学校の概要についてご説明いただいた後、小学部・中学部・高等部の部主事の先生のご案内で、授業参観や施設の見学をさせていただきました。



9月の小方朋子教授の出前授業「特別支援教育について」で学んだことと関連づけて、見学をすることができました。**特別支援学校の先生方、貴重な経験をさせて頂き、本当に有難うございました。**

教職リカレントプログラム 令和4年度

教職にリカレントプログラム（令和4年10月～令和5年2月）

| | |
|-----|---|
| 講習数 | 9 |
|-----|---|

令和4年12月5日現在の受講申込者数

| 講習名 | 対象職種 | 講師名 | 受講者数 |
|-------------------------------|----------------------|----------------------------------|------|
| 教育の最新事情 | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 小方 直幸 松井 剛太 坂井 聡 大久保 智生 | 46 |
| 災害に学ぶ学校防災 | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 北林 雅洋 寺尾 徹 | 25 |
| 心理学から見た学習意欲 | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 岡田 涼 | 34 |
| はじめての特別支援教育 | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 小方 朋子 中島 栄美子 | 39 |
| 障害があるとはどういうことなのか？—ICFと新しい能力観— | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 坂井 聡 | 38 |
| 教師の指導が助長する問題行動とその見方 | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 大久保 智生 | 40 |
| 道徳教育の充実 | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 植田 和也 | 29 |
| 乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ | 教諭・ 養護教諭・ 栄養教諭 | 松本 博雄 松井 剛太 | 32 |
| 表現遊びを楽しむ | 教諭 | 岡田 知也 藤元 恭子 吉川 暢子 | 31 |
| 計 | | | 314 |

▶ 県別受講状況

| 都道府県cd | 県名 | 受講者数 | 都道府県cd | 県名 | 受講者数 | 都道府県cd | 県名 | 受講者数 |
|--------|-----|------|--------|------|------|--------|------|------|
| 37 | 香川県 | 35 | 05 | 秋田県 | 1 | 28 | 兵庫県 | 5 |
| 36 | 徳島県 | 1 | 12 | 千葉県 | 1 | 29 | 奈良県 | 1 |
| 38 | 愛媛県 | 1 | 13 | 東京都 | 2 | 34 | 広島県 | 1 |
| 01 | 北海道 | 2 | 14 | 神奈川県 | 1 | 42 | 長崎県 | 1 |
| 04 | 宮城県 | 1 | 27 | 大阪府 | 2 | 46 | 鹿児島県 | 2 |
| 計 | | | | | | | | 57 |

覺書・要項

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

(目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

(実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

(研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

(連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協りに当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

(連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

(経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

(補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長
惣 脇 宏

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長

副学部長

教育研究評議員

実地教育委員会委員長

学生支援専門委員会委員長

学務委員会委員長

入試専門委員会委員長

附属学校代表

附属教職支援開発センター長

幸町地区統合事務センター長

幸町地区統合事務センター事務課長（幸町北キャンパス担当）

香川県教育委員会

教育長

副教育長

教育次長

総務課長

義務教育課長

高校教育課長

特別支援教育課長

香川県教育センター所長